

天皇・貴族が中心となった政治と文化

福岡県公立中学校教諭

はじめに

博多港から対馬海峡を経ると、釜山港が見えてくる。いにしえより、福岡市には、古代の国際交流の窓口として、「鴻臚館^{こうろくかん}」があった。現在でも、アジアの玄関口としての役割を果たしている。南下すると、対新羅の防衛として築かれた水城、そして、大宰府政庁がある。近くには、大宰府天満宮があり、学問の神様とよばれる菅原道真公が祭られている。

平成17年に、福岡県太宰府市に、日本で4番目の国立博物館が開館した。数々の展示品が訪れる者を圧倒する。同時に、わが国の文化が、アジアと深いかかわりがあること、長い時を経て、国風文化が形成されていったことを実感させる。

学習指導要領の歴史的分野の目標に、「国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を、その時代や地域との関連において理解させ、尊重する態度を育てる。」「歴史にみられる国際関係や文化交流のあらましを理解させ、我が国と諸外国の歴史や文化が相互に深くかかわっていることを考えさせるとともに、他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う」とある。

本単元では、天皇・貴族が中心となった政治の展開のあらましと文化の特色を、東アジ

アとのかかわりの中からとらえる学習をする。

そこで、授業づくりとして、

- ①古代史を学ぶにあたって、身近な地域にいた教材に恵まれている地域性があること
- ②教科書に、仮名文字ができるまでの経過が明記されていること

をふまえ、

- (1) 博物館学習を軸とした郷土学習
- (2) 仮名文字に着目した、文化の変遷の授業

を提案したい。

2 博物館学習を軸とした郷土学習の授業例

(1) 目的

・博物館などの利用を授業のなかに積極的に位置づけて、年間指導計画を作成することにより、

- ①歴史学習への関心を高めることができる
 - ②歴史事象を具体的に把握することができる
- という目標が達成できると考えた。

福岡には、時代を象徴する遺物や文化財が多数存在することは、前述のとおりである。

対象生徒は、小学校での博物館見学を通して、遺物とふれあう体験学習を行っている。また、奈良の大仏のレプリカを作成する学習を行ったそう。体験活動を行っている生徒は、歴史的事象への関心が高い傾向があった。一方、体験活動を経験していない生徒

は、「小学校で何を学習したか、覚えていない。」という声が目立った。この差を埋める意味でも、博物館で遺物にふれる学習、なぜ福岡市が「アジアの玄関口」と呼ばれているか、歴史を通して学習する計画を実行した。

ここでは、本單元に関するところのみを紹介する。

(2) 授業の流れ

- ① 実施時期 学年末
- ② 対象生徒 中学1年生
(通常授業で江戸時代まで学習)
- ③ 博物館学習の手順
打診→打ち合わせ→指導計画作成
→博物館学習→評価の手順で行った。

第1次 事前学習

- ① 福岡の歴史の流れの復習。
- ② 古代史までの学習の復習。

第2次 博物館学習

「大陸との接点“西の都”」(福岡市博物館の常設展示のテーマ)に関するワークシート

- 問1 鴻臚館は、福岡市のどこで発見されましたか。
- 問2 鴻臚館は、どのような目的でつくられましたか。
- 問3 鴻臚館の跡からはどのようなものが出土しているのでしょうか。
- 問4 鴻臚館は具体的にどのような役割を果たしたのでしょうか。
- 問5 遣唐使を派遣した目的は何ですか。

第3次 事後学習

- ① 単元テスト
 - ・福岡市の歴史の流れ
 - ・福岡市は、なぜ「アジアの玄関口」とよばれるのか、歴史の視点から述べなさい。
- ② 博物館学習を終えてのレポート作成および意見交換

<博物館学習を終えて 生徒の感想>

○小学校の時にいった九州国立博物館では、歴史勉強を深くしていなかったもので、見てもよくわからなかったです。中学になって行くと、習ったところが多かったので、学校で習ったことの発展として取り組み、考えを深めることができました。そして、教科書でしかみたことのないものをみる事ができて、貴重な体験をすることができました。今度はゆっくりと1つ1つの展示をくわしく見て、理解したいと思います。体験学習なども含め、とても楽しく学習できました。



体験学習室で「玩具からみた東アジアと日本の共通点」について学習中の生徒たち

○福岡の歴史で興味のあるところは、金印と元寇だけだった。しかし、奈良時代の鴻臚館など、国際交流がさかんだったということがわかって、福岡市はアジアの玄関口だということを実感できた。来年は修学旅行で韓国に行くので、日本の文化についてしっかり勉強して、質問に答えられるようにしたい。

・この生徒は、2年次の修学旅行で、釜山博物館を見学した。その際、平安時代も、商人など、民間レベルでは、交流がさかんであったことに着目している。天平文化と国風文化のちがいを、「日本は当時孤立していたのではなく、独立したあられ」と気づきをレポートに記載していた。東アジアの国々とのかわりのなかで、日本文化が熟成されていったことを、博物館での学習を通して気づいた。体験学習の大切さを実感させる感想だった。

3 仮名文字に着目した授業展開

(1) 目的

教科書p.42～43では、天平文化と国風文化を比較できる構成になっている。同時に、国のなりたちについて、近隣の国との共通点についての記述、仮名文字ができるまでの経過が記されている。

生徒は、国際色・仏教色の濃い天平文化は、894年、菅原道真の遣唐使の廃止を提言することで国風文化に一変した、というイメージを抱いていた。当時の政治と文化につながりがあることはわかってはいるものの、それがどういう経過をたどっていったのかについて

は、考えが及んでいなかった。

そこで、

①まとめる→②比べる→③経過をさぐる

展開で授業を行った。

(2) 授業の流れ

①和歌を2首詠む

A 万葉集より

大夫跡 念在吾哉 水莖之
水城之上尔 泣将拭
(ますらをと 思へる我や水莖の
水城の上に 涙拭はむ)

B 菅原道真の歌

東風吹かば にほひおこせよ 梅の花
あるじなしとて 春な忘れそ

②気づいたことを発表する。

- ・万葉仮名（漢字ばかり）と平仮名のちがい
- ・詠んでいる人の立場のちがい
- ・「梅」だから奈良時代じゃないのか？
でも、平仮名で表記されているから平安時代だろう。
- ・「東風」ということは、菅原道真は、よほど京都に帰らなかったんだろうな。そんなに福岡がいやだったんだろうか。
- ・当時からすでに、都と地方とに格差があったんじゃないか。
- ・漢字はいつのまに平仮名になったのだろう。

③学習目標の設定

天皇・貴族が中心となった時代の文化の特色を①まとめる②比べる③経過をさぐるの3段階で考える

<展開>

④まとめる

教科書p.42～43を見開き2ページでノートにまとめることを通して、古代の文化の流れをつかむ（1時間）。（まとめる）

⑤まとめて気づいたことを発表しよう

- ・紫式部や清少納言など、女の人が登場している。
- ・物語や随筆などのジャンルが広がっている。
- ・天平文化は大陸の影響を受けているが、国風文化は私たちに「なじむ」。

（比べる）

⑥2つの文化が栄えたころの首都の地図を見よう。現在の京都と奈良の地図も見よう。

（比べる）

⑦共通点は？

- ・碁盤目状・奈良は、周りに古墳あり。
- ・平安京は奈良にくらべると大きい。
- ・世界文化遺産がいっぱい。

⑧都の「つくり」は変わっていないのに、ノートにまとめたように、文化の特色はちがいがはっきりしています。

奈良時代から平安時代にかけて、政治や国際交流でどのような変化があったか、確認しましょう。（経過をさぐる）

○政治の変化

奈良時代

- ・天皇を中心とした中央集権国家の完成。
- ・奈良の大仏にみられるように、仏教の力で国をまとめようとしていた。

平安時代

- ・仏教色が奈良時代よりは薄くなっている。
- ・摂関政治が行われるなど、天皇の力が奈良時代に比べると前面に押し出されていない。
- ・天皇より貴族が政治の中心となっている。が、天皇が軽んじられていたわけではない。

- ・院政にみられるように、摂関政治のあとは、皇族が政治の実権をにぎった。

○国際交流の変化

奈良時代

- ・仏教を中心に、大陸のすすんだ文化を積極的に、命がけて取り入れていた。

平安時代

- ・菅原道真が、遣唐使の廃止を進言した。
- ・手本としていた唐から、政治的に学びつづけた。

<まとめ>

結論 ⑨ 奈良時代から平安時代にかけて、大陸と仏教の影響を受けた国際色豊かな文化から、日本人の生活感情にあった独自の文化が形成され、現在に至っている。

<評価>ワークシート、単元・定期考査

4 おわりに

「国際交流＝英語が話せるようになる、まずは近隣の国を知ろう」というとらえ方がされがちである。真の国際交流は、自国の歴史（ルーツ）や文化を理解したうえで、相手の国を知り、かかわることを積極的に行うことを歴史学習を通して、進めていくことが肝要であると考えよう。

自身の反省として、文化史の授業では、生徒にノートにまとめさせる、ワークシートに記入させる、おもな文化財などの名前を「覚える」ことで終わらせがちである。

年間指導計画を見直して、博物館学習や出前授業などで、歴史授業への関心を高める、思考を深めさせる授業を組み立てていきたい。